

## 第2回 港湾施設の持続可能な維持管理に向けた検討会 議事概要

日時：令和6年3月19日（火） 10:00～12:00  
場所：国土交通省（中央合同庁舎2号館）第1会議室

### 1. 主な議事

○事務局より、下記について説明を行った後、委員による意見交換を行った。

- ① 第1回検討会での主な意見
- ② ワーキンググループでの議論内容
- ③ 係留施設の点検診断結果の分析報告
- ④ 維持管理に関する告示・ガイドラインの見直しの方向性について
- ⑤ 今後の進め方（案）

### 2. 主な意見

○今後の劣化を把握する上では、鋼構造の鋼管杭や鋼矢板の防食方法も把握することが望ましい。上部工はエポキシ樹脂鉄筋を採用している施設で劣化程度が把握できれば今後の活用につながる。

○当県独自のアセットマネジメントシステムから広島県のインフラマネジメント基盤 DoboX に点検結果が連携されている。DoboX が今後サイバーポート（港湾インフラ分野）（以下「CP」）にも連携されていくので、当県から提供した点検結果と今回分析を行った点検結果の差異というものは解消されていく。

（事務局）今回の整理では補修済み施設は対象としていないが、今後の点検の合理化という観点では、補修時期も重要であるため片手落ちになる可能性がある。性能低下度の評価と経過年数の整理では、部材毎に整理すると傾向が見えてくると考えられる。

○WG の若手の意見で港湾の基準類が他分野に比べてわかりづらいとの意見があり、他分野の基準を参考にさせていただくことなど工夫があればいいのではないか。

○移動端末用点検診断システムはどこの港湾を対象として稼働するのか。

→（事務局）現段階では具体的なユーザの意見を聞いて作成されているものではないため、今後各ユーザに使用していただき意見を伺い改善をし、システムの運用につなげていきたい。検証は CP の会議体構成員で行うと考えているが、本検討会のメンバにもご協力いただければありがたい。

○点検診断ごとの性能低下度の遷移と経過年数は重要なデータである。この結果だと 1 ランクアップするが 5 年程度のため、現状の点検頻度は妥当とも考えられる。分母が 101 施設で A になる施設を対象とし、古い施設等を含んでいるため健全性の高い施設を除いた評価をしていることも考えられる。そのため、直近整備された施設や A 評価とされていない施設の分析も今後行うといいのではないか。

○性能低下度の遷移のばらつきを考慮した分析もデータが蓄積すれば可能である。論文で過去に整理しているため参照されたい。

○維持管理情報 DB に余り所見が入力されていない理由の一つは、ユーザ側からは所見を入力するメリットが分かりづらいためと思われる。所見の入力が今回のような分析に繋がることを情報発信して、入力を促すことが重要である。今回分析いただいた遷移傾向などを示すことにより、点検間隔を長くするリスクが検討できるようになるとと思われる。

○本検討会に参加されている自治体から維持管理情報 DB 以外の維持管理に関するシステムの話もあったが、複数のシステムが使われていたりするのか。国と各自治体とがダブルスタンダードみたいに見えるが、こうした点に対して今後はどのような取り組みになるか。

→（事務局）二重入力は避けたいと思っているので、港湾管理者独自のシステムと維持管理情報 DB の連携対応を図っているところ。

○合理的な点検期間の設定の論点に関しては、点検期間に限らず、点検手法、点検対象項目も合わせて合理化を図ってもらいたい。

○点検期間については、日本全国一律で変えることは難しいため、施設毎に点検頻度を設定することになるのではないか。今のガイドラインは標準を示しているため、逸脱しても問題ないが、どうしたらいいのかが分からない

いので標準外の取組に至らない。管理者、設置者が適切に検討して点検頻度を決めるにはプロセスが重要であり、誰に聞けば、何の情報があれば点検間隔を延ばすことが出来るのかを、手続きや必要資料の例を示すことが求められているのではないか。今回参加いただいている自治体でもいいので点検頻度延長のテストを行ってみてもいい。

- 他の事業体の基準類では、点検を判定するための参考事例集が充実しているので、そこが少し不十分かもしれないため、ユーザーサポートの充実を図る必要はある。
  - 現状の点検のやり方は点検結果の ABCD の判定を行うことに熱心になりすぎているところがある。判定を行うことが維持管理ではなく、本来は補修を行うために点検を行う。先の目標となるかもしれないが、今後予防保全を施策として行っていくのであれば、予防保全の適切な時期を決めるためにはどのような点検が必要なかを整理すると、簡略化できるのではないか。
  - 日常的な点検システムが普及し、日常点検等が簡素化できることで、定期点検の見直しに繋がるのではないか。また、管理者以外に利用者の方からの意見を募れるようなシステムがあってもいいかもしれない。
  - 日常点検では利用者の意見を聞くこともガイドラインに記載しているので、そうした取組もあってもいいのではないか。
  - 維持管理情報 DB 上の所見の記入は定型文のようなものがあるといい。
  - 所見の記入は負担軽減に繋がると記入率も上がるのが考えられる。入力することによりビッグデータとしての効果を理解してもらえよう伝えていき、活用されることで、さらに点検診断に関する情報の入力に繋がるような循環ができるといいのではないか。
  - 施設を持続可能なものとするよう、100 年経った施設を無理矢理延命化させるだけでなく、そうしたものの作り替えが持続可能なものとして有効な場合がある。そうした要素についても次回以降で検討していただきたい。
- (事務局) 国有港湾施設と補助施設を全体としてどのように維持管理していくのが重要である。体制も含めて課題も多いが、大小様々な港湾毎に対応していきたい。
- 総括として、来年度の検討も含めて DB の分析と深掘りが必要であり、それ

が点検の最適化に繋がるようにする。CPの連携や所見の定型文入力システムの構築が必要である。DBの入力がどのように港湾の維持管理、整備に繋がるのかを管理者に理解してもらうための取組みも必要である。

以上